日本映画大学公開授業第7弾 映画『アトムの足音が聞こえる』上映 る場点が問題を表現した。 本語の記憶を表現した。 本語の記憶を表現したる。 本語の記憶を表現したる。 本語の記憶を表現した。 本語の記憶を表現したる。 本語の記憶を表現したる。 本語の記憶を表現したる。 本語の記憶を表現したる。 本記憶を表現したる。 本記憶を表現したる。 本記憶を表現したる。 本記を表記を表現したる。 本記を表記を表現したる。 本記を表現したる。 本記を表現したる。 本記を表記を表現したる。 本記を表現したる。 本記を表記を表現したる。

1 1 / 29 (sat) 13:00-16:00 (開場 12:30)

会場:日本映画大学 新百合ヶ丘校舎 4階 大教室



『アトムの足音が聞こえる』 13:00 より上映

『ぶぶ漬けどうどす』『白鍵と黒鍵の間に』 冨永昌敬監督が描く珠玉の"音響"ドキュメンタリー

一度聞いたら忘れることのできない"宇宙の音"を創造した音響デザイナー・大野松雄。 日本初の国産テレビアニメ「鉄腕アトム」の独特な足音など、そのひらめきは周囲をうならせ、 ときに困惑させ、手塚治虫とやりあうこともしばしば。勅使河原宏や松本俊夫ら映画作家との 音づくり、「万博」での音響デザイン、自らのドキュメンタリー制作などその活動は多岐に渡る。 しかし彼は、東京での活動の最中、突如表舞台から姿を消してしまった―。 伝説となった大野の偉業と後世に与えた影響を紐解き、その波乱の人生を追う。

映画上映後、冨永昌敬監督によるトーク

【監督プロフィール】

1975年生まれ、愛媛県出身。

2006 年 『パビリオン山椒魚』で商業映画デビュー後、『パンドラの匣』『乱暴と待機』『南瓜とマヨネーズ』『素敵なダイナマイトスキャンダル』『白鍵と黒鍵の間に』などを監督。また、ドキュメンタリー映画に『庭にお願い』、『アトムの足音が聞こえる』、『マンガをはみだした男 赤塚不二夫』がある。最新作『ぶぶ漬けどうどす』が今年6月より全国公開された。



日 時	11月29日(土) 13:00-16:00 (開場 12:30)
会 場	日本映画大学 新百合ヶ丘校舎 4階大教室 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-16-30
申し込み	右記の QR コードより申し込みお願いいたします。 ※参加費無料(限定80名)※要事前申し込み
お問合せ	O.kitagawa@eiga.ac.jp(担当:北川)



https://forms.gle/FKcbeJ7K3CUrcFeA9